

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0172000903 | | |
| 法人名 | 有限会社 Human-Hope | | |
| 事業所名 | グループホーム自由の風 (すいせん) | | |
| 所在地 | 小樽市奥沢2丁目10番18号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年6月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年8月13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000903&SCD=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 有限会社 ふるさとネットサービス |
| 所在地 | 札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階 |
| 訪問調査日 | 平成 22 年 7 月 26 日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの理念は、開設時に職員全員で話し合った上で作成して居り、ホーム内の目に付き易い場所や事務所内、名札の裏面等に理念を掲示し、日々意識をしながらサービスに当たって居ります。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ホームに隣接しているスーパーでの買い物や地域のお祭り等の各行事に参加し、日常的な交流に努めて居ります。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて認知症の勉強会を行い、介護現場を御覧頂く等をして支援方法を理解して頂く事で、町内会から地域の人々に情報を伝えて頂いて居ります。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 札幌でのGH火災の後、早急に運営推進会議にて非常災害時に於ける地域住民との連携・協力体制等を議題とし活発な意見交換をする等、サービス向上に活かして居ります。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 事業所として又は職員から不明な点や疑問が生じた場合には、その都度市町村に相談し助言を頂いて居ります。 又、市役所介護保険課内に当方のパンフレットを置いて頂いて居ります。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ホーム内で身体拘束委員会を設けて居り、定期的な勉強会や外部研修へ参加する事で内容報告し、全職員への周知と正しい理解に努め、身体拘束の無いケアを実践して居ります。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待に関する外部研修会への積極的な参加やホーム内での定期的な会議及び勉強会でも高齢者虐待防止法について理解を深め、職員同士でも注意をしながら防止に努めて居ります。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在の所、成年後見等の制度を必要とした利用者は居らず、今後必要性が出た場合には速やかに活用出来る様、日頃から制度を学び理解して居ります。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には本人と家族に分かり易く十分な時間を掛けて説明を行い、不安要素や疑問点を解消した上で、理解と納得を得て居ります。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日頃から利用者や家族から気軽に話して貰える関係を構築して居ります。 又、ホーム内に苦情相談利用書を設置して居り、意見があった際には速やかに対応して居ります。 | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の全体会議の中で職員から率直な意見を述べて貰い、又、普段から職員一人一人が何でも話せる雰囲気作りに努めている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は頻回にホームへ訪れて管理者や職員一人一人との交流を持つ中で、個々の仕事への姿勢や力量、現場の状況把握等に努めて居り、又、資格取得についても積極的にサポートを行って居ります。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 他社や市町村による外部の研修会や当社グループ内での研修も含め、個々の職員の経験や力量を考慮しながら参加を促し、職員全員の更なる質の向上に努めて居ります。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他事業所の夏祭りや敬老会等の行事や研修会に参加して情報交換をしながら交流を深めて参考にし、サービスの質の向上に繋げて居ります。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者に対し思いや困っている事等をじっくりと傾聴し、意思を尊重しながら十分な話し合いを行った上で安心感を得られる様な取り組みをして居ります。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前には必ずホームを見学して頂いて意見や疑問がある場合には事前に解決し、その後も家族の思いを家族の立場となって受け止め対応して居ります。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居以前の生活歴や情報を収集し、本人と家族からの要望等を尊重した上で優先して必要とする支援を考慮し、又、必要性が出た際には他サービス利用にも対応して居ります。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は人生の大先輩として利用者に接して居り、日々の生活の中で教わり、学び、共有し合う事で信頼関係を構築して行く様に努めて居ります。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の訪問時には本人の日常の様子や健康状態を伝え、又、共に楽しみや喜びを感じて頂くため行事への参加の呼び掛けも行い、より良い関係の構築に努めて居ります。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の馴染みの病院や理美容室を利用し、以前住んでいた町や思い出深い場所を訪れる機会を提供する等、これまでの関係が継続する様に努めて居ります。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が利用者間に入って故郷の昔話や幼少時代などの共通の話題を提供し、利用者同士に共感や親しみが生まれる関係作りに努めて居ります。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後にも本人や家族には気軽に立ち寄って頂く様、相談があれば連絡を下さる様に伝えて居り、関係の継続に努めて居ります。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人一人の生活歴や本人の希望を把握しその人らしい暮らしが送れる様に努め、意思疎通困難な人には家族からの情報収集により対応して居ります。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時には自宅訪問や本人・家族の情報収集、生活歴や毎日の習慣等を伺いこれまでの暮らしの把握に努めて居ります。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者個々の暮らし方を観察し見極め、日常生活の中出来ない事への支援と出来る事の維持継続に努めて居ります。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議等で職員が意見を出し合い、本人・家族の意見を取り入れて本人にとってより良い暮らしに必要な介護計画を作成して居ります。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別ファイルに日々の様子や食事・排泄状況等を記入し、職員間で情報を共有する事で実践に活かして居ります。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の意向や状況に応じての病院送迎やその他の必要とされる支援に対しては、臨機応変に対応して居ります。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域と連携しながら生活出来る様、近所での買い物、小学校の運動会や町内会の行事、消防による避難訓練への参加に努めて居ります。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前にかかりつけ医の確認を行い、本人・家族が希望する病院で適切な医療を受けられる様に支援して居ります。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ホーム内の看護師や協力病院の看護師と密な情報交換を行い、不安な点や不明な点が生じた時には常に連絡を取れる体制を整えて居り、医療活用に努めて居ります。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃より担当医や看護師には往診時等に利用者の健康状態を詳細に報告して居り、入院となった場合でも家族を交え話し合いや情報交換を行い、早期退院に向けた相談・支援に取り組んで居ります。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人・家族の意思を尊重した上で、状態に変化がある場合には早急に医師・看護師と話し合い、必要時には家族に伝え本人、かかりつけ医と共に今後の方向性を話し、方針の共有を行って居ります。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生時マニュアルを作成してそれに沿った勉強会を定期的に行き、急変時の初期対応も看護師からの指導助言等にて全職員の実践力に繋げて居ります。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に数回消防による避難訓練を実施して居り昼夜それぞれを想定した避難対応を訓練して居ります。運営推進会議時にも地域協力を呼び掛け訓練に参加して頂いて居ります。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者一人一人の人格を尊重し、敬意を払った言葉掛けや個人の私生活を保持出来る対応に努めて居ります。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者とは会話をする中で意思や希望を引き出し、利用者の立場に立ったサービスを行う事で自己決定出来る様に支援して居ります。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者本人の「今したい事」を尊重し、その一つ一つを大切に繋ぎ合わせて日々を過ごして貰う事で、その人らしい暮らし作りを行って居ります。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替え時には本人に服を選んで頂き、行きつけの理美容院があれば通える様に支援して居ります。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と職員と一緒に盛り付けや食器洗いを毎日行い、年間行事として外食や出張サービスの寿司屋で普段とは違った食事を楽しめる支援をしています。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分の摂取量は職員が毎日確認して記録し、加不足にならない様に努めて居ります。献立・食材は専門業者への委託により、バランス良い食事を提供して居ります。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 嚥下力維持の為毎朝嚥下体操を実施し、毎食後には口腔ケアの声掛けと必要に応じて介助を行い清潔保持に努めて居ります。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者一人一人排泄チェックを行い排泄表を作成する事でパターンを把握し、必要に応じた介助を行いながらトイレでの気持ち良い排泄を支援して居ります。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 散歩や家事の手伝いに参加して頂く事で身体を動かし、水分量や食事内容にも配慮し便秘予防に取り組んで居ります。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 体調を考慮した上で、利用者が入浴したい時、これまでの習慣で入浴していた時間等の希望に沿った支援をして居ります。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の休息はその時の希望、体調等を考慮し確保して居り、十分な夜間安眠の為に日中の活動参加に努めて居ります。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が薬手帳等で薬の目的・副作用・用法用量を理解し、手渡しによる与薬と服薬確認、状態観察を実施して居ります。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者のこれまでの生活歴や習慣から、趣味を活かした活動や役割を持った毎日を過ごせる様支援して居ります。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の散歩や買い物の希望時に職員が付き添って近所へ出掛けたり、年間行事での外出時には家族の参加も募り一緒に過ごせる様支援して居ります。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の希望や状態に応じ家族より少額の金銭を本人に所持して頂いて居り、職員と買い物に行った際には自分で支払出来る様に支援して居ります。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の好きな時に連絡のやり取りが出来る様に支援して居り、コードレスの電話機にて個室で私的な会話が出来る様配慮して居ります。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や装飾をフロアに飾り四季を感じられる空間作りに努めて居ります。又、温度や湿度も適時確認し、快適な暮らしを送れる様に努めて居ります。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合った利用者同士で会話が出来るソファやベンチを多く設置し、又、一人でゆっくりと過ごせる窓際のスペース作り等の工夫をして居ります。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 今迄使用していた馴染み深い物を入居時に持参して頂き、家具の配置も個人の心地いい様に調整する等安心感の提供に努めて居ります。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや浴室、台所等は大きく分かり易い表示を貼り出し、日にちや時間がいつでも確認出来る様カレンダーや時計を目立つ所に設置する等取り組んでいる。 | | |